

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年 5月26日

【評価実施概要】

事業所番号	4073000426		
法人名	株式会社 ウェルフェアネット		
事業所名	グループホーム さわやかテラス		
所在地 (電話番号)	福岡県筑紫野市立明寺 533-1 (電 話) 092-918-0045		
評価機関名	株式会社 アトル		
所在地	福岡市博多区半道橋 2-2-51		
訪問調査日	平成20年5月9日	評価確定日	平成20年6月11日

【情報提供票より】(20年 4月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 13 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニッ	利用定員数計	17人
職員数	14人	常勤 11 人, 非常勤 3 人, 常勤換算	6.5 人

(2)建物概要

建物形態	単独		改築
建物構造	木造 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	11,000 円
敷 金	有(200,000 円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	500 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4)利用者の概要(4月 1日現在)

利用者人数	17 名	男性 6 名	女性 11 名
要介護 1	5 名	要介護 2	2 名
要介護 3	5 名	要介護 4	4 名
要介護 5	1 名	要支援 2	0 名
年齢	平均 84.5 歳	最低 70 歳	最高 97 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	よこみぞ医院 おがた小児歯科医院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、幹線道路から一步入った田園や畑に囲まれた静かな環境の中にあり、家訓である「あるがままに楽しくゆったり」と実践している。利用者の1日の決まりごと等は決めず、個々に対応し、利用者職員がその日その日を共に楽しく過ごしている。ホームの横にある畑での作業中に地域の住民が畑作りの方法を助言をしてくれることもある。また、大型ショッピングセンターの設立にあたっての環境の保持のための地域での話し合いにもホームから参加する等地域に溶け込んでいる。このように、利用者が今後も安心して安全な暮らしができるよう代表者、管理者、職員が共に協力することにより、家族からの信頼も得、家族とのよりよい関係が構築されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善点である評価の意義の理解と活用においては会議を開き全員で取り組んでいる。食事を楽しむことに関しては、できる限り利用者も関わり職員と一緒に食事を楽しむ工夫をしている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目	リーダーを中心にグループを作り話し合いを行った。その後リーダー会議において検討し、全体会議で更に話し合いを持ち、其々に確認をしホームの姿の振り返りに活用している。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
重点項目	区の会長、公民館館長、民生委員、市の担当者等の参加があり、家族、職員も必ず参加して定期的に開催している。ホームの状況や行事の呼びかけ、家族からの意見も活発に出され、地域の諸問題も検討する等、運営推進会議を有効に活用している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法、運営への反映(関連項目:外部8,9)
重点項目	家族が面会に来られた際に利用者の近況や状態がわかるように、記録を見てもらい報告を行っている。記録は、利用者個々の毎日を時間を追って記録したものであり暮らしぶりや、状態がわかるものとなっている。家族の意見を聴きやすくするために家族会や家族面談を定期的実施している。
重点項目	日常生活における地域との関連(関連項目:外部3)
重点項目	町内会に入会し地域の一員として暮らしている。地域の行事に利用者と共に参加したり、ホームの催し物に町内の住民を招待している。今後は、更に地域と密着するために、資源回収や清掃活動にも参加する予定である。

2. 評価報告書

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1.理念に基づく運営					
1.理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくらせている	法人としての基本理念はあるが、ホームで独自に家訓として利用者も含めホーム全体で決めた「あるがままに楽しくゆったり」とを代表者をはじめ全員で取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	家訓は玄関に掲示し全員で確認でき共有している。取り組みにおいて最も心がけていることは、利用者の立場に立って暮らしを考え職員も利用者と共に過ごすことを実践できるようにしている。		
2.地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入会し、話し合いに参加している。区の総会や地域の行事にも積極的に参加し、ホームの催し物にも町内からの参加がある。ホームの横に畑があり、そこで作業をしていると、近隣の住民が助言をしてくれたりと、地域との交流もある。		
3.理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	リーダーを中心に話し合いを行い、全体で会議を開き職員一人ひとりが理解できるよう説明、話し合いを行っている。自己評価の結果をホームの姿の確認振り返りの材料とし日々の業務や暮らしに活用している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的に開催している。出席者は地域の関係者、区会長、公民館館長、民生委員、市担当者や地域包括支援センター担当者や家族、職員等充実した会となっている。地域とホームの関わりや、ホームの状況は勿論、ヒヤリハットの報告を行い、利用者の安全の為に取り組みがなされている。		

グループホーム さわやかテラス

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	代表者が市の窓口に行き直接要望を伝えたり相談し、関わりは深い。また、他の職員も懇意にしており、電話や訪問にて情報交換している。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員がこの制度に関するボランティアをしており、周知している職員が多いが全職員が理解しているわけではない。パンフレットの準備もしており、必要な人に説明、活用できるようにしている。	○	ボランティアをしている職員がおり、パンフレットも準備されている為、全職員が周知できるよう勉強会等を強化すると、職員のスキルアップにもつながり、ホームの強みにもなるのではないだろうか。
4.理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に記録を閲覧できるようにしており、利用者の状態や近況、金銭管理の報告を行っている。毎月のホーム便りも送付し個々に報告している。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会、家族面談を定期的に行き、家族からの意見を聴き取っている。また、面会時に直接要望等を聴き取るよう気軽に声をかけることを心がけている。外部への窓口も掲示している。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内での異動はあるが最小限にしており、異動や離職の際は職員をチーム構成している為、そのリーダーが新人職員に引継を行っている。職員交代の場合、家族へはホーム便りに載せ、利用者へはホーム内で紹介している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用に関しては性別や年齢等条件は無い。採用する職員の年齢層を幅広くし、広い世代の情報を交換できるようにしている。また、嘱託制度も設けており、本人が長く働けるようにしている。無資格者の採用もあり、資格取得の機会を作っている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	職員の会議にて、人権についての研修を行っている。身体拘束や常日頃の言葉使いや挨拶に関しても代表者を中心に教育の場を設けている。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画に沿って研修を行い、職員の段階や課題別に勉強する機会がある。外部の研修の案内にて、職員は希望により研修を受けることができる。		
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に参加している。職員も会合に出席し文化祭等、他の事業所と交流を図る機会がある。また、広義にも交流の意味を捉え他県のグループホームとも交流があり、情報交換を行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前に必ず自宅等を訪問し本人、家族と顔を合わせ馴染みの関係を作ることを行っている。現在は空き居室が無い為、宿泊の体験は難しいが見学や日帰りの体験は自由にできるよう受け入れる体制を整えている。		
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者も家族の一員であることを心得、家事(料理や掃除の仕方)を職員が聴き取り一緒にやっている。また、昔の出来事や歌等と現在の流行の歌や流行の情報等利用者と職員が情報交換しお互いを知る工夫をしている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を取り入れ本人の思いが具体的に解るよう工夫をしている。家族と密に話し合いを持ち本人の意向の把握を行っている。また、本人の表情を観察することで思いを察知している。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の言葉や表情を見逃さず聞き取り、利用者の思いと家族の希望をチームで話し合い、カンファレンスで全職員が共有したもので計画書が作られている。主治医の意見も反映されているが、担当者会議録が個々に無い状態である。	○	本人の思いが細かく表され、わかりやすい計画が作成されているが、担当者会議においての利用者個々の記録が無い為、担当者会議の記録作成が求められる。
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	1ヶ月に1回見直し、家族の意見等も反映させており、利用者個々の毎日の記録を参考にしている。また、本人の状態により計画を見直している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の要望にて臨機応変に対応している。通院の支援や家族の急な宿泊等一般家庭のように柔軟な対応を行っている。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望にてかかりつけ医は其々であるが、其々の主治医と連携を図っている。緊急時は協力医による往診や薬の管理等本人が安心できる体制を整えている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時に家族の意向や希望を聴き取り、本人の思いを確認している。重度化した場合は、再度家族、医療関係者との話し合いを持ち本人、家族の意向を確認しながら、自然な形で対応することを全職員は共有している。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1.その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の人格や個人を尊重した優しい対応している。個人記録等、第三者が目につかない場所に保管されている。個人の名前や写真を表記する場合は本人、家族に口答で了解を得ているが書面での了解がない。	○	利用者個々に職員は配慮し、思いやりのある対応を行っている。利用者と職員が一緒に過ごしている写真等その様子が良く解るが、個人情報の取り扱いもより確実なものとする為、書面で了解を得ることが求められる。
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の決まりごととは殆ど無く、その日その日を利用者と職員が会話する中で利用者個々の希望に沿って過ごしている。		

グループホーム さわやかテラス

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえや盛り付けも利用者のできる力を発揮できるよう支援している。嗜好の確認も行い食欲増進にも心がけている。また、後片付けも楽しみながら利用者と職員が行い和やかな雰囲気である。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日、時間帯等の決まりは設けておらず、いつでも自由に入浴できる体制を整えている。入浴チェック表にて頻度の少ない利用者へは、さりげなく誘導しできる限り気持ちよく過ごせる工夫をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の特技を活かし畑で野菜を作ったり家事のできることは職員と一緒に行う等役割がある。また、季節に応じた外出やドライブ等暮らしを楽しむ支援を行っている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣の散歩やスーパーに買い物に出かけることは、日常的に行っている。ドライブを兼ねた外食や、スーパーに行ったついでに喫茶を楽しんでくることもある。		
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵は掛けていない。利用者が自由に出入りしたり家族も何時でも面会に来られる。利用者が屋外に行った場合は、様子を見ながら本人に合わせ対応している。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう動きかけている	1年に2回消防署立会いにて避難訓練を実施している。夜間想定した訓練を行ったり備蓄品も確保している。近隣の住民の協力体制は今後検討している。	○	消防署を交えての訓練や災害時の備え等整っているが、職員だけの誘導の限界もあることを想定し、地域の協力体制が得られることで、本人、家族がより一層安心して暮らせるのではないだろうか。

グループホーム さわやかテラス

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士が献立をチェックしており、栄養のバランス等助言してもらい、利用者の栄養の確保を行っている。食事量、水分量の記録も確実にいき、個々に対応している。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	すっきりした玄関、清潔に整理整頓された台所は気持ち良く、食卓には畑に咲いている花が飾られている。居室や居間には自然の光が入り心地よさを感じることができる。玄関先にはベンチやテーブルが配置され、利用者がゆっくりと過ごせる工夫がされている。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所以前から使用している椅子や小物等、利用者個々に居心地が良いよう工夫されている。		